

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○6月8日～

先週もドル／円はじわじわと上昇し、160円を超えてきました。

先週末に発表された雇用統計が予想より強かったため、米国が年内に利上げに動く可能性が高まったということで、株が夜間(NY時間)に急落しています。

その影響でクロス円は下げて終わっているペアも多いので少し注意がいります。

週明けの月曜は日本株も下落するリスクがありますが上昇トレンドが崩れたわけではないので、株価が持ち直すのか本格的な調整入りとなるのかも見ていきたいです。

今週も大きな材料がなければドル／円は高値圏での狭い動きが続く可能性があります。

来週、日本と米国が金融政策を発表するまでは為替相場は様子見姿勢となるかもしれません。

今週は欧州が金融政策を発表しますが利上げ予想となっています。

オーストラリアは今年に入って何度か利上げを行っていますが欧州も利上げに動き出すと他の国も利上げの検討に入るかもしれません。

日本の利上げが遅れると円安がさらに加速するリスクがあるため来週の日銀の動きには注目が集まっています。

株価は先週も日経平均、NYダウが史上最高値更新しました。

超大型IPO(新規公開株式)であるイーロン・マスク率いるスペースXの上場が12日ということもあり、株は大きな動きになる可能性もあります。

ただし、最近の株の動きは資金が特定の銘柄に集中しているという特徴があります。

好決算や好材料の後に売られるというような動きも頻発しているためイベント前後に大きな売りが出て暴落というような動きになるかもしれません。

ビットコインも下げが止まらず、昨年秋の高値から半分程度の価格まで下げています。

リスク資産から資金が逃げ始めている可能性もあり、為替相場は落ち着いた動きですが他の市場の動きを見ているとやや心配です。

株価が大きく下落していくとクロス円は下がりやすくなるため注意がいります。

そして、中東情勢は悪化したまま時間だけが過ぎていきます。

米国とイラン、レバノンとイスラエルの間で何度も交渉が行われていますが上手くいかず、部分的な戦闘は今も続いています。

関税については米国が新たな関税を検討しているようですが他国の反発も強く、関税引き上げは前途多難に見えます。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル／円>

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

ドル／円はじわじわと円安が進み、160円台まで戻してきました。

160円台前半でマーケットが終わっています。

160.5円を超えてくると介入してくる可能性もあります。

4月末は160.7円あたりで介入が行われているので、このあたりのレートが意識されそうです。

高値を買う戦略は危険なので、買う場合は下がるまで待った方が安全です。

下値は159.6円を割り込むまでは強い動きが続きそうです。

ここを割り込んでも5月末につけた安値の159円あたりまでの下げなら円高リスクは限定されそうです。

159円を割り込むと158円あたりまで下がる可能性があります、下がれば買いが入りやすいため狭い動きでの売買を想定したいです。

<気になるクロス円>

クロス円は雇用統計の発表後に売られ、下げて終わっているペアが多いため注意がいります。

豪ドルはもう一段下げとなると、日足で114円台後半の高値を3度つけているためトリプルトップのようなチャートの形になるため下落転換となるかもしれません。

NZドルも今月最初に高値をつけてからは下落しているため下げ止まるまで買いは様子見がよさそうです。カナダドルも今月に入ってから軟調な動きとなっています。

クロス円は中長期で見ても昨年春から1年以上上昇が続いているペアが多く、株価が大きく下げれば同じように下げに転じるかもしれません。

日足だけでなく、週足のチャートも確認しながらトレードしていきたいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では1-3月期GDP(改定値)、4月貿易収支などがあります。

米国では4月貿易収支、5月中古住宅販売件数、5月消費者物価指数、5月月次財政収支、5月卸売物価指数、前週分新規失業保険申請件数、6月ミシガン大学消費者信頼感指数などの発表があります。

欧州ではドイツで4月製造業新規受注、4月鉱工業生産、5月消費者物価指数、ユーロ圏でECB(欧州中央銀行)政策金利発表、ラガルド・ECB総裁定例会見などがあります。

ほかには、カナダで政策金利、中国で5月貿易収支、英国で4月GDPの発表などがあります。